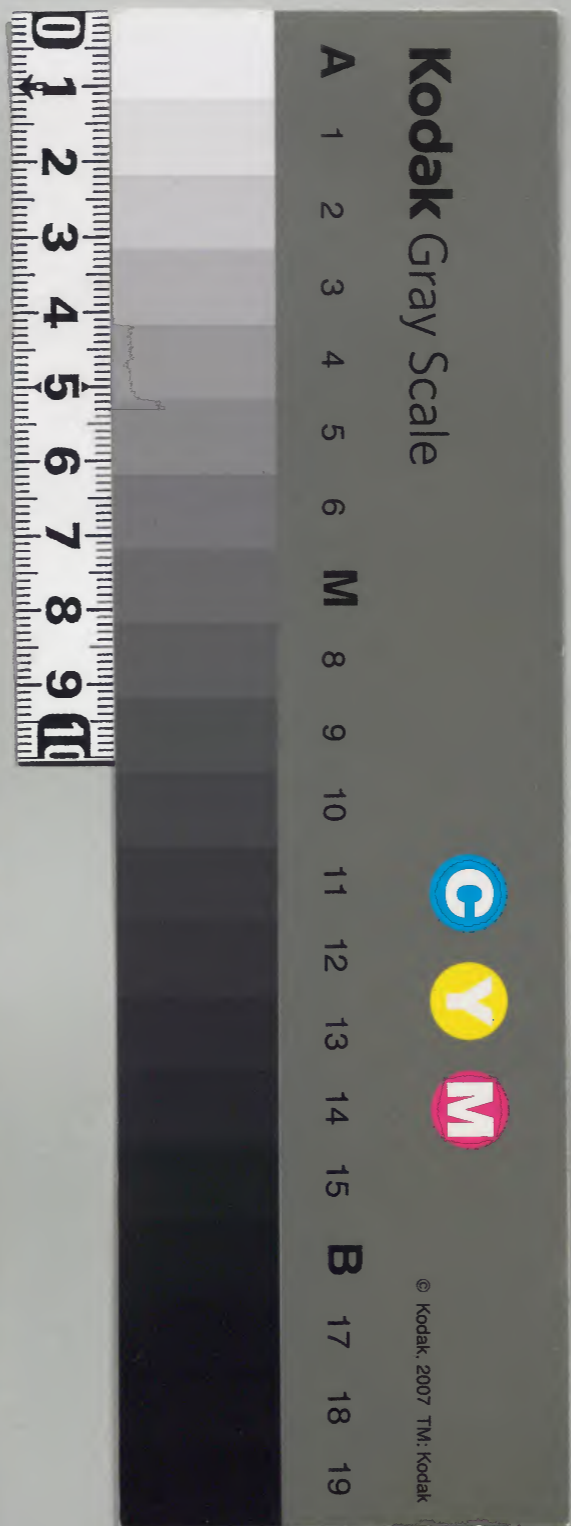


和書門
二七二一三
九一三
八冊架函號類

内閣文庫
和書
二七二一三
八冊架函號類

内閣文庫	
番號	和 27213
冊數	8 (4)
函號	203 121



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり
原本の文字など不明瞭な箇所があり

無量壽經曰下見善憎不愚及

不可此也

論語里仁爲

見賢思齊焉

となくむ大學

傳曰人之有技

媚嫉以惡之人

之彥里而違之

俾不通

論語里仁爲

見賢思齊焉

となくむ大學

傳曰人之有技

媚嫉以惡之人

之彥里而違之

俾不通

人の心とるは... 人の心とるは... 人の心とるは... 人の心とるは... 人の心とるは...

人の心とるは

人の心とるは

人の心とるは

人の心とるは

人の心とるは

人の心とるは

人の心とるは

人の心とるは

明治十二年購求

語陽貨篇上精
與下愚不移宋
邢昺正義曰上
知聖人不可移
之使爲惡下愚
使強賢

此利をうけず。依節のそら成してんた。
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい

詩説神龍狂人
走不在人走淮
南子曰在者東
走逐者東走東
走則同所以東
走則異

此利をうけず。依節のそら成してんた。
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい
 とそら。この人の賢名をさる。海の海の人の賢人とい

子曰宋之愚人得燕石於梧臺之側藏之以爲大寶周客聞而觀之主人齋七日端冕玄服以發寶華圍十重巾十襲客見悅而掩以盧胡而笑曰此特燕石也與瓦甃不殊主人大怒曰商賈之言譬匠之心藏之愈固守之彌堅秘藏遺樂經疏曰隱故名秘覆故名藏

集として。田村玄公任の撰をうかふふりありしりふ

の待文の理を撰にりして和候と号するりつ文と和字と

載をよひつ但和字の公任の及候河院の河村野村を加へ

とらふもいふも公任の待文と号するりつ文と和字と

は傳りたる条奥白敷通と号するりつ文と和字と

は傳りたる条奥白敷通と号するりつ文と和字と

は傳りたる条奥白敷通と号するりつ文と和字と

は傳りたる条奥白敷通と号するりつ文と和字と

は傳りたる条奥白敷通と号するりつ文と和字と

ぬくころ。とひかれればさへバラス。世

よみぞこ此物あはたりなれえひあく極氣

たり。りあれ性いろつらねのされいつわいあやまりと

奥山。猫まことひあおあそく人成り

ふるね。猫まこれけつるといふもて猫まことひあそく

と人のいひたるふ。いあひさきとまきけい

わづりて猫まことひあひさきとまきけい

のこころとひあそものさる極気。何何極気とらや

のこころとひあそものさる極気。何何極気とらや

のこころとひあそものさる極気。何何極気とらや

猫まことひあそものさる極気。何何極気とらや

猫まことひあそものさる極気。何何極気とらや

猫まことひあそものさる極気。何何極気とらや

猫まことひあそものさる極気。何何極気とらや

猫まことひあそものさる極気。何何極気とらや

猫まことひあそものさる極気。何何極気とらや

猫まことひあそものさる極気。何何極気とらや

元亨 釋書檀興篇曰
 釋行圓鎮西人
 寛弘二年遊帝
 城頭戴寶冠身
 披革服却下呼
 爲歡上人於賀
 茂神祠側發行
 願寺安千手像
 以圓衣革俗呼
 行願寺爲華堂

入てまのけもや猫まゝい。やくと
 の程はらんとは 肝も 氣も せそ。あをぐん
 とはゆよカもぬく。足もたはび小川へあゆび

云何宗乃あは付字
 甲八字そあり
 一宗此れ過よあはゆづて一人ありん
 身はらまゝい
 事ふらう。とあひあは
 比しを或あて。夜くらあまで連歌
 して只一人
 小川のほとりて
 壺むく一宗此れ小川あり一之大箇あきよの時

入てまのけもや猫まゝい。やくと
 扇小箱 細みど。あをとしゆよ持
 水よ入ぬ帯背みして。ひらひらり
 かりらるさあそ。あく
 ひらあむれ。くろをねどやを志りて。夫本集が実流
 あそれまのわしとあむる。あひつらりたるを

以來分爲加茂
安倍之二家

變易之淫樂

經曰諸行無常

同經二十七曰

如來常住無有

變易のそと

たゞの往生要

集曰一生雖盡

希望不盡幻

化圓覺經曰苦

薩衆生皆是幻

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

化樹子及於

變易れさるゝし
ありゆるれハ吉凶もさざりけりやう
ありゆるれハ吉凶もさざりけりやう
ありゆるれハ吉凶もさざりけりやう

ねせん
なのだまハねまはるるをれと
なのだまハねまはるるをれと
なのだまハねまはるるをれと

終り
終り
終り
終り

始多無終
始多無終
始多無終
始多無終

れんさして
れんさして
れんさして
れんさして

まろり
まろり
まろり
まろり

あつら
あつら
あつら
あつら

幸し
幸し
幸し
幸し

り
り
り
り

諸經教幻喻偏多良以五天此術頗衆見聞既審法理易明及傳此方翻成難曉者凶八人

聚前集十二沈

類時日無吉凶

辨日吉凶由入

焉繫時日又曰

其凶也必由於

人其吉也必由

於人故吉人凶

其吉凶入吉其

凶於入之所

爲而已矣涅槃

經一七曰求佛

良醫不應選擇

良時好日

良時好日

良時好日

良時好日

良時好日

良時好日

良時好日

良時好日

良時好日

良時好日

良時好日

易行他のものことなるにやう
易行他のものことなるにやう
易行他のものことなるにやう

吉日ハ
吉日ハ
吉日ハ
吉日ハ

あつら
あつら
あつら
あつら

ねせん
ねせん
ねせん
ねせん

終り
終り
終り
終り

始多無終
始多無終
始多無終
始多無終

れんさして
れんさして
れんさして
れんさして

まろり
まろり
まろり
まろり

あつら
あつら
あつら
あつら

幸し
幸し
幸し
幸し

り
り
り
り

舊須臾俄頃也
論曰孟子曰誦
堯之詩行堯之
行是堯而已矣
余則曰誦佛之
言行佛之行是
佛而已矣何憊
乎哉佛祖修行
入道蹊徑其捷
如此而人反以
為難深可慨悼
至達佛知見入
大乘法矣何難
之有哉与此語
勞同

よ換わりとどきも又人ある判わりその教は生

わゆるの死ぬちうに生れぬ志らざるはよしす

てよ。あるうり い牛もども 人又同ト。 牛此世に居る

くくもあらぬ い牛もども 牛 一ハなせり。 牛とはよく 牛 月をい

あら方金より色は半一牛のあはひ 牛 毛は半も軽し。 牛 牛 万金をぬく一錢と

かえん人。 牛 万金をぬく一錢と 牛 換わりと

かえん人。 牛 万金をぬく一錢と 牛 換わりと

金より大論
曰説滿世界宝
無有直身命遊
仙窟曰其言長
有千金面注曰
一金七兩也惠
空按依此説所
謂万金七万兩
也 毛より
文選司馬遷報
任少卿書人固
有一死或直於
大山或軀於鳩

毛野鶴引此文
又選教本作鶴
續高僧傳二十
二曰輕若鴻毛
朗詠載雪似鶴
毛飛散乱死を
あくまの孟子告
于篇生亦我所
欲死亦我所惡
志うつらふ五
灯會元十八温
別佛日禮師傳
曰人心難蒲溪
怒易填

うらやま
それ理の半れるも
又いそぐ
兼好人
れを後さび日ぐよ
は世れたの
財は
地は財を

ハ樂邦文類曰
貪生惜死生
のあふあつ
生死覺用扱
曰欲出生死不
見生死欲得涅
槃不執涅槃唯
除執見當至佛
地六門集曰生
死不拘一切法
拘他不得是名
大自在王如來
圓覺經曰不斷

のあふあつ
生死覺用扱
曰欲出生死不
見生死欲得涅
槃不執涅槃唯
除執見當至佛
地六門集曰生
死不拘一切法
拘他不得是名
大自在王如來
圓覺經曰不斷

即落道又三日也初生空死濕染俱寂靜

生死不來涅槃
涅槃生死無起

滅念常心心
徳止觀勸文曰

法華已前方便
諸經說夢中生

死是非今法花
圓頓說羅前本

覺真如實相一
理物也吾學編

六十五日凡上
所下六日詔二

日勅五日冊文
六日諭七日書

八日符九日令
七日檄 本朝

文粹朝野群載
筆載本朝勅書

可見又禁秘抄
曰勅書黃紙
自唐太宗貞觀
始之上脚卷之
主上書冊但依
事狀或書月給
或不書月給也
勅書可忌御表

いまは死の相よわづらひてい

は美の理はゆかり 此生死よりいふ事と

あはれよきとたれいひたをわする事なればあは

あはれあはれさる事なればあはれあはれ

あはれあはれさる事なればあはれあはれ

常盤井相國 公孫の御是歌人として定家の

子出侍い給ひさる小勅書 勅書天子

ちろふお面 お祝の上お面下お面とてあはれ

あひま あひま

またさるりおりのりもあはれ相國後
よお面何ぐいハ 何甚そんでうそれ 勅書
と持さる下りいれり者ありお祝は
あ あはれあはれいさるあはれあはれ
あ あはれあはれいさるあはれあはれ
あ あはれあはれいさるあはれあはれ

あ あはれあはれいさるあはれあはれ

あ あはれあはれいさるあはれあはれ

あ あはれあはれいさるあはれあはれ

あ あはれあはれいさるあはれあはれ

居家必用十五日勅牒天下制命也

野橋云云念

明心宝鑑 引景行録曰德 勝財為君子財 勝德為小人宝 鑑亦載人為財 死鳥為食仁君 子仁義あり 老子十八章曰 大道廢有仁義 河上公曰大道 之時家有孝子 戶有忠信仁義 不見也大道廢 不用惡逆生乃 有仁義可傳道 慶良相集註曰 至德之世不尚賢不使能上如標枝民如野鹿端正而不知以為義相變而不知以為仁 柏文彦嘉山堂外紀載元栢子庭可僧詩世間何物最堪憎蚤虱蚊蠅鼠賊僧船脚車夫先晚 毋湿柴爆炭水油燈一儒部此詩曰為僧僧一遠真而作栢子庭吳僧而作是詩躬自厚而薄 責於人豈無意哉

夢は氣あり。由は賊あり。
法苑珠林卷二十目鼠盜竊小獸夜典畫匪

少人は財あり。
それ故つゝのよむとそころるふり

子よ仁義あり。
是れ善好れものむとそころるふり

りともころるふり。これ性なり。けけけけ。仁義のやうな徳は、
すもあふ。これ性なり。けけけけ。仁義のやうな徳は、
善し。つぎに。性の人。これ中。仁義のやうな徳は、
有。新。性。の。人。に。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。
り。寂。寞。を。み。た。る。れ。に。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。
て。世。に。人。を。導。く。に。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。
と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。

あつてあつて。大なる。うら。あつて。大なる。うら。あつて。大なる。うら。
一。あつて。あつて。大なる。うら。あつて。大なる。うら。あつて。大なる。うら。
と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。

僧小法あり。
同て云此僧此三宝といふと

と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。
と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。
と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。
と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。
と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。
と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。と。ん。な。り。さ。す。ま。ま。い。て。い。は。し。め。り。け。け。け。け。

身有盛徳其容
 隱曰君子之人
 容顏若愚去子
 若愚君子盛徳
 聞之良賈深藏
 子老子曰云吾
 用將聞禮於老
 史記六十一老
 子傳曰孔子適
 高徳著之稱

一 道世至有ハおらハふ事ハもハぬハ成ハるハひハて

一 上ハ蘊ハ下ハ蘊ハあり

不ハ上ハ蘊ハ一心ハ戒

文中卷曰慧暁
 禪師ハ聲聞ハ僧ハ上
 萬徳善禪師ハ聲
 聞僧ハ下ハ蘊ハ金剛
 經畧疏解大比

一 上ハ蘊ハ下ハ蘊ハあり
ハ上ハ蘊ハ下ハ蘊ハあり
ハ上ハ蘊ハ下ハ蘊ハあり

一 心ハ乃ハ心ハ結ハふハとハいハふハ別ハのハすハけハん

史記六十一老
 子傳曰孔子適
 高徳著之稱

貌謙退有若愚魯之人然荀子曰孔子云聰明聖知中之以愚

也云文選絶交

書唯飲酒過量

大理事文新集

卷之二十七曰

大理古司刑官

也舜命皋陶作

正五刑孔安

國曰理官也周

官爲司寇晉文

公使李離爲理

秦置廷尉掌刑

辟有左右監漢

因之景帝更名

大理武帝復爲

廷尉宣帝置左

右廷尉平哀帝

復爲大理取天

官貴人之宅曰

大理之義後漢

復爲廷尉郡國

讞疑皆處當以

報魏復爲大理

復改廷尉以世

宗爲之而郭氏

本盛梁爲秋卿

加卿字曰廷尉

北齊復爲內之

卿隋爲大理寺

唐因之云惠空

案劉昫唐書職

官志大理正從

第五品下階又

新唐書四十八

百官志曰大理

寺卿一人從三

品少卿二人從

品少卿二人從

と毛髪もひきけ 才一此道とん 是の輝るり

此かとおもひしすたさるん 兼好さうふん

院海へはふあへー けきもあまきとけりて世世因

人のありさまよとちりめんためま後と接いさるん

堀川相國の 基具る之志余内符具突之 羨男

はあれいさるん 田お云羨翁のまよとめり

さるく 何南其事 びさるん けきもあまきとけりて世世因

俊つをちりよめて 大いん換非遠後別高の

云換非遠後使能之天り此れ遠之と礼新をちりよ

大納言理器墨とあつりて誠也白川院の作より

此はあつりて俊つと作らるる 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

とちりさるん 庭務 換地遠後

五品下堂折獄
詳刑云應務

直氏藻林曰廳
事所政之堂也

蘇史記三十

三周公世家曰

答於固實徐廣

曰固一作故事

昭曰故實故事

之是者

其れ後友為 あるとて是くより友人どもなりを

りたればそはゆゑもふなり 其奥のを極を

あつては ひしひとすてを

久我相必 推定之と云これゆゑ

水成 百案判案抄

火成 抄中

火成 抄中

火成 抄中

火成 抄中

火成 抄中

引江次第曰任

大臣節會撰吉

用召擬任人念

前一日上卿奉

或人 大任は任をくは

内并 是命會れなり

内并 是命會れなり

内并 是命會れなり

勅仰外記令誠
野司仰辨令裝
東裝束之預置
宣命版當日仰
宣命真大臣奏
宣命奏書及清
書如常返給其
後給內記令候
於仗座預定宣
命使參議或大天皇御南
殿懸御簾內弁
著靴玉御着外
弁近仗階下諸
衛各立中務式
部彈正入春華
修明門立承明門東西內弁取副宣命於筵進立軒廊西一間不着宣
元子北面開門開承明建兩門閣閣司着承明門左右座大臣喚舍人
二少納言就版大臣宣喚乃祿少納言稱唯退出召之公卿參上立標入自承明門東扉內弁
召參議一人徵音參議徵音稱唯出列經軒廊東二間自簀子敷西進立內弁後長柳下內弁

宣命參議受之云內弁江次第曰第一大臣於承明門內弁備諸事故曰內弁第二大臣於門
外弁備諸事故云外弁宣命職原抄萃菴校正注曰宣命者用神社山陵者也書樣有法式
延喜式曰凡節會及尋常詔言者內記預書但臨時詔勅者承旨即內記作詔書凡宣命文
者皆以黃紙書之但奉伊勢大神宣文以縹紙書賀茂社以紅紙書即職原抄曰大外記二
人相當正六位
下上近代五位
少外記三人相
當正七位上外
記恒例臨時公
事除降叙位等
更奉行之宣也
五進難四書類
函卷七曰按饌
作難周禮夏官
方相氏掌蒙熊
皮黃金四目衣
衣朱裳執戈揚
盾帥百隸而時
難以索室殿殿
古者一歲三儼

宣命參議受之云內弁江次第曰第一大臣於承明門內弁備諸事故曰內弁第二大臣於門
外弁備諸事故云外弁宣命職原抄萃菴校正注曰宣命者用神社山陵者也書樣有法式
延喜式曰凡節會及尋常詔言者內記預書但臨時詔勅者承旨即內記作詔書凡宣命文
者皆以黃紙書之但奉伊勢大神宣文以縹紙書賀茂社以紅紙書即職原抄曰大外記二
人相當正六位
下上近代五位
少外記三人相
當正七位上外
記恒例臨時公
事除降叙位等
更奉行之宣也
五進難四書類
函卷七曰按饌
作難周禮夏官
方相氏掌蒙熊
皮黃金四目衣
衣朱裳執戈揚
盾帥百隸而時
難以索室殿殿
古者一歲三儼

宣命參議受之云內弁江次第曰第一大臣於承明門內弁備諸事故曰內弁第二大臣於門
外弁備諸事故云外弁宣命職原抄萃菴校正注曰宣命者用神社山陵者也書樣有法式
延喜式曰凡節會及尋常詔言者內記預書但臨時詔勅者承旨即內記作詔書凡宣命文
者皆以黃紙書之但奉伊勢大神宣文以縹紙書賀茂社以紅紙書即職原抄曰大外記二
人相當正六位
下上近代五位
少外記三人相
當正七位上外
記恒例臨時公
事除降叙位等
更奉行之宣也
五進難四書類
函卷七曰按饌
作難周禮夏官
方相氏掌蒙熊
皮黃金四目衣
衣朱裳執戈揚
盾帥百隸而時
難以索室殿殿
古者一歲三儼

宣命參議受之云內弁江次第曰第一大臣於承明門內弁備諸事故曰內弁第二大臣於門
外弁備諸事故云外弁宣命職原抄萃菴校正注曰宣命者用神社山陵者也書樣有法式
延喜式曰凡節會及尋常詔言者內記預書但臨時詔勅者承旨即內記作詔書凡宣命文
者皆以黃紙書之但奉伊勢大神宣文以縹紙書賀茂社以紅紙書即職原抄曰大外記二
人相當正六位
下上近代五位
少外記三人相
當正七位上外
記恒例臨時公
事除降叙位等
更奉行之宣也
五進難四書類
函卷七曰按饌
作難周禮夏官
方相氏掌蒙熊
皮黃金四目衣
衣朱裳執戈揚
盾帥百隸而時
難以索室殿殿
古者一歲三儼

季春命國人饑
以異春氣仲秋
天子饑以達秋
氣季冬天子命
有司令卿人大
饑以逐疫氣以
達陽氣 本朝
作法記于年齋
拾唾又上註之

也。多。つ。小。洞。虎。方。大。臣。也。よ。 大織冠廿四代

少平 姓守公 男 後二位 次 中身を中 徳らむとされ

又みく 勇と

師と 師らよむと 外れ才先 師り。と 師の

後ひ 師。 冥泰のいけ 又みく 師らよむと 師の

皮又みく 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

ひさつと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

あつと 師らよむと 師の 考く 師らよむと 師の

見礼記月令註
習狎也天子親
幸之臣 徒之
海篇集 昭日謎
音寐隱言 終妙
好辞 世說新
語卷中曰魏武

ゆくゆく（抄）言ふ事なく今よ夕はく夜を待つるまにをかく思ひて

る縁おつらふおたのましくまゝにびる（抄）

下（抄）子女れあてい

て入（抄）むひね（抄）つよむとぞし（抄）ひよ（抄）やと（抄）案内（抄）せさ（抄）勢

あ（抄）ま（抄）海（抄）い（抄）そ（抄）心（抄）ん（抄）と（抄）と（抄）い（抄）ら（抄）

あ（抄）ま（抄）海（抄）い（抄）そ（抄）心（抄）ん（抄）と（抄）と（抄）い（抄）ら（抄）

あ（抄）ま（抄）海（抄）い（抄）そ（抄）心（抄）ん（抄）と（抄）と（抄）い（抄）ら（抄）

あ（抄）ま（抄）海（抄）い（抄）そ（抄）心（抄）ん（抄）と（抄）と（抄）い（抄）ら（抄）

あ（抄）ま（抄）海（抄）い（抄）そ（抄）心（抄）ん（抄）と（抄）と（抄）い（抄）ら（抄）

あ（抄）ま（抄）海（抄）い（抄）そ（抄）心（抄）ん（抄）と（抄）と（抄）い（抄）ら（抄）

都良香詩
日守家一犬迎

ぐらつたれ一犬たててくること
ぐらつたれ一犬たててくること

下子女れあてい

て入むひね

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

あま海いそ心んとといら

に依^ツ依^トの人へそこくまことしつらむひぞやすれ

いれぬかあるとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

のまたとしけすもいれぬかあるとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

なごよびておびあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

おびぬれぬとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

おびぬれぬとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

おびぬれぬとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

おびぬれぬとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

おびぬれぬとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

おびぬれぬとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

おびぬれぬとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

おびぬれぬとあまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら
あまひといふよりふり終たれ御之平せつあれら

浄土上人
土源流章曰證
空初住小坂弘
法後移西山弘
通淨教西山善
峯寺延曆寺別
院彼寺北尾名
隆彼處永為淨
教行處

高野の陀泥上人
此は陀泥上人の傳記也。黒谷上人傳三十三卷に
のせり。此は陀泥上人の傳記也。黒谷上人傳三十三卷に

此の陀泥上人は
高野の陀泥上人は
高野の陀泥上人は

高野の陀泥上人
高野の陀泥上人は
高野の陀泥上人は

男わたりてひどりのふらふら
男わたりてひどりのふらふら
男わたりてひどりのふらふら

ひどりのふらふら
ひどりのふらふら
ひどりのふらふら

此の狼藉は
此の狼藉は
此の狼藉は

優波塞より
優波塞より
優波塞より

比丘の優波塞
比丘の優波塞
比丘の優波塞

比丘左慈菴居
比丘左慈菴居
比丘左慈菴居

比丘の優波塞
比丘の優波塞
比丘の優波塞

一 怖魔二 居士
 三 淨命四 淨戒
 五 破惡光明文
 句記曰 優婆塞
 此云 近事男大
 藏一 覽目僧男
 曰 優婆塞最勝
 王文句記亦曰
 優婆夷此云 近
 事女大藏一 覽
 曰 長老女曰 優
 婆夷

修也 字凡男
 修也 字凡男
 修也 字凡男

みればぬの也
あつたあへのしるべし
 せらうやらん
下臈され六四初れ弟子は
 上人
何とらあ
 何とらあ

はせらうやらん
下臈され六四初れ弟子は
 上人
何とらあ
 何とらあ

修也 字凡男
のまゝにうけりて
 何とらあ

久しと
久しと
 久しと

二章經曰 慎無
 視女人 若見無
 見慎無 與言 若
 與言者 勅心正
 行

たうとらあ
たうとらあ
 たうとらあ

女は物ひひけら
女は物ひひけら
 女は物ひひけら

亀山院
院のあややづ
 院のあややづ

女房を
女の女房を
 女の女房を

時を
時を
 時を

いんぎつとせとあふ。女は性ひがめり
いかに侍のまに人我の相うく。人我をさるる
すむるうらむと云。人我の相うく。人我をさるる
はらめく男男子も人我の心。貪欲はれんて
かあれども女はう。日曰休浄土文曰婦人日更加疾妬貪欲業縁輔深
ひまの心。拙れ理成て。只まのうひのう
つよき。

女は性ひがめり
淫弊經曰一切女人必有詭曲
俗如患毒多過
佛說邪論甚於
男子入我の心
傳心法要曰與
髮時無人我等
相六祖壇經曰
無人我貢高貪
愛執著名離欲
尊六時禮贊五
會法事贊以
室六門集金剛
有人我字金剛
經註曰迷人性
有財室學問族
姓輕慢一切人
名我相離行仁義
禮智信不合敬名
人相貪欲法界次第
曰引取心無厭足為
貪欲

淫弊經曰一切女人必有詭曲

淫弊經曰一切女人必有詭曲

いんぎつとせとあふ。女は性ひがめり
いかに侍のまに人我の相うく。人我をさるる
すむるうらむと云。人我の相うく。人我をさるる
はらめく男男子も人我の心。貪欲はれんて
かあれども女はう。日曰休浄土文曰婦人日更加疾妬貪欲業縁輔深
ひまの心。拙れ理成て。只まのうひのう
つよき。

いんぎつとせとあふ。女は性ひがめり

いかに侍のまに人我の相うく。人我をさるる

すむるうらむと云。人我の相うく。人我をさるる

はらめく男男子も人我の心。貪欲はれんて

かあれども女はう。日曰休浄土文曰婦人日更加疾妬貪欲業縁輔深

ひまの心。拙れ理成て。只まのうひのう

つよき。

いんぎつとせとあふ。女は性ひがめり

いかに侍のまに人我の相うく。人我をさるる

すむるうらむと云。人我の相うく。人我をさるる

はらめく男男子も人我の心。貪欲はれんて

かあれども女はう。日曰休浄土文曰婦人日更加疾妬貪欲業縁輔深

けりし何れありし
げりし何れありし

守海抱朴子
行品曰答持律
以進德者益人
也

惠空曰菩薩阿色欲法曰女色者世間之重患凡夫因之至死乃至是以智
者知而遠之不受其害而穢故不為此者之所惑也此章亦此意也

守海の臨みおび人なり
いふべからざる人れ等
はるかにしるべきことあり

人とおび
をいふことありし
をいふことありし
をいふことありし

忍ふふしてをいふ人のおふい
をいふことありし
をいふことありし

人とおび
をいふことありし
をいふことありし

人とおび
をいふことありし
をいふことありし

人とおび
をいふことありし
をいふことありし

人とおび
をいふことありし
をいふことありし

びて
のりし何れありし
のりし何れありし

しる
のりし何れありし
のりし何れありし

月と
のりし何れありし
のりし何れありし

要覽曰智度論
曰得道者名爲
道人餘出家者

未得道者亦名
爲道人四十二
章經曰佛問一

沙門人命在幾
聞對曰呼吸之
間佛言善哉子

可謂爲道者矣
いつのそいつの日
實無常偈曰

此月已過命即
衰減如小水魚

いづれか
いづれか
いづれか

いづれか
いづれか
いづれか

神閑策進作如

期生安養謝靈
運負才傲物一名
與遠播蕭然心
服爲盤二池引
永裁百蓮表入
社師以心難止
芝陶精明范甯
賢招入社終不
能致故齊已詩
云元亮醉多難
入社謝公心乱
入何妓死人一
同竹窓二筆
曰真照繼跡而
無明煩惱作矣先
德謂暫時不在猶
如死人故學道人
不可利利而失般
若智先德者蓋案
指册霞潭禪
師先德何のためよー

思ふは... 初小昔... 修せん人の修を
... 浄土或問曰持獲身心撥棄世事得一日光景念一日佛名得一時

工夫修時薄業

木のむね... 人のなを... 修せん人の修を

木のむね... 人のなを... 修せん人の修を... 修せん人の修を

此

まらる。原と此原は或も必はりませよ。世
破らるる。此下。藩をもちた。聖人のいふ

めよ。かある。鞠。日本。の鞠の。名。めい

拾遺。細を。襪よ。之。用。的。天宮。の。後。定。は。太子。の。法。流。地。紙

て。後。や。と。く。人。の。必。為。と。けり。わ。らん

鞠。居。六。切。説。文。鞠。以。革。爲。圓。當。實。以。毛。髮。繫。脚。爲。戲。亦。曰。鞠。鞠。古今。註。黃。帝。君。兵。之。勢。列。向。別。録。蹴。鞠。黃。帝。造。以。練。武。士。或。云。起。戰。國。漢。霍。雲。病。傳。穿。域。踰。鞠。註。服。履。云。聖。地。備。鞠。室。也。雙。六。海。篇。詳。注。曰。雙。陸。出。天。竺。國。波。羅。塞。戲。其。派。入。於。中。國。也。自。曹。植。始。

鞠居六切説文鞠以革爲圓當實以毛髮繫脚爲戲亦曰鞠鞠古今註黃帝君兵之勢列向別録蹴鞠黃帝造以練武士或云起戰國漢霍雲病傳穿域踰鞠註服履云聖地備鞠室也雙六海篇詳注曰雙陸出天竺國波羅塞戲其派入於中國也自曹植始

雙六の

雙六の 雙六の 雙六の 雙六の 雙六の 雙六の 雙六の 雙六の 雙六の 雙六の

ひ人よそのめてたてて 上

とをよひゆりしゑがたんと 上

いしとよひゆりしゑがたんと 上

いしとよひゆりしゑがたんと 上

いしとよひゆりしゑがたんと 上

いしとよひゆりしゑがたんと 上

いしとよひゆりしゑがたんと 上

いしとよひゆりしゑがたんと 上

いしとよひゆりしゑがたんと 上

此とあるは... 畢きおき此餘備するべし

圍基双六あめをてあり... 戒の中此殺盜淫

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

果敢殺をすして死して比獄に墜るといふ律よりいふは

法苑一百三曰夫四重二逆佛身... 圍基双六あめをてあり

父殺母殺阿羅漢殺和合僧出佛身血集註曰殺父下明五逆罪殺意下殺於上也

八道行城至若故作者犯輕垢罪雲棲發隱曰圍基今十九路大基也

也雜室藏經卷六論七事非法其第三曰貧貧者博不修禮敬

中ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

ひいふるありを何とて四重禁を犯すは故は戒者よりいふは

此の事はあはれ事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 としけりし事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 一、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 二、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 三、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 四、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 五、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 六、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 七、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 八、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 九、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 十、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事

此の事はあはれ事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 としけりし事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 一、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 二、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 三、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 四、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 五、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 六、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 七、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 八、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 九、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事
 十、事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事

四ノ九十一 白

此の事はあはれ事なりしるん人なりてはさういふ事此のいふ事

前板 諺あり まてごおかりな心と為則 唯

車れりふ 車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

希 希ありしりふ式 希ありしりふ式

い いふ いふ

い いふ いふ

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

車 車 車

減のさ

四

カ

ふ知

しり

結ゆ

い

い

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

前板

車

希

い

い

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

車れあふとの之を解れ奉る小君御車しり

ある友 相好 ありてけりてめりて人の言ひてきくはつてきくはつてきくはつてきくはつて
の例よきなりとてけりてめりて人の言ひてきくはつてきくはつてきくはつてきくはつて
くはつてきくはつてきくはつてきくはつてきくはつてきくはつてきくはつてきくはつて

鯉のあつもの食あり目と蟹買うてきくはつてきくはつて
目七

膠をもはく物なれ カハ
膠は魚の骨を膠する物なり

たねぞりたる物 タネ
たねぞりたる物は魚の卵なり

経 セ
経は魚の骨を膠する物なり

物なれ モノ
物なれは魚の骨を膠する物なり

やん ヤン
やんは魚の骨を膠する物なり

記魚 キイ
記魚は魚の骨を膠する物なり

名 ナ
名は魚の骨を膠する物なり

維 イ
維は魚の骨を膠する物なり

草 クサ
草は魚の骨を膠する物なり

湯 ユ
湯は魚の骨を膠する物なり

乃 ノ
乃は魚の骨を膠する物なり

中 ナカ
中は魚の骨を膠する物なり

字 ジ
字は魚の骨を膠する物なり

後 ノチ
後は魚の骨を膠する物なり

上 ウヘ
上は魚の骨を膠する物なり

相 アイ
相は魚の骨を膠する物なり

好 ヨク
好は魚の骨を膠する物なり

付 ツキ
付は魚の骨を膠する物なり

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

えはるど山入る處 あまも実氏をき盤升 仕給へ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

魚の海より川をとる魚を枝とひよ

くまひりなるがし並ねが時次り人なる
いれし合はれぬあやむくもあや

倉の物を業れおとなくも事うくす。

のまひ日の中なるは物なれはついでんそ書ももはばあは

はくひるまりわきまかまうかたえ

わきまはれまよししうせく又田中より後継へしうまきまは

一室史あるまを事ありはあり

さうらぬるを乃もれもはらひは

不きく

なりを物と書とせびも又均と記

貨とたふもはらひは

小書旅契篇曰不
賢遠物則遠人
概有茶氏註
始くまひりなる
老子經曰不貴

難得之貨獲良
不為

とのなり

は難いあれきり末にきりの上つては用らるし物はお
はらひはらまきりしけりまきりし物も用らるし物も

法地系参考書之四終

